

第二回 日本語スピーチ コンテスト

(テーマ)

日本って、どんな国
外国人が感じたもの



開催報告書

2019年6月

港ユネスコ協会

第二回

日本語スピーチコンテスト

日時	2018.12.1(土) 13:30~16:00
会場	港区立生涯学習センター101号室
主催	港ユネスコ協会
後援	玉川大学ユネスコクラブ 慶應大学ユネスコクラブ ESD 活動支援センター 関東地方 ESD 活動支援センター

目 次

1. 日本語スピーチコンテスト開催について	P 2
2. 第二回日本語スピーチ コンテスト開催に寄せて	P 3
東京アメリカンスクール理事長 坪谷 郁子(審査委員長)	
玉川大学 小林 亮 教授 (交流会企画・実施)	P 4
3. 朝日新聞での紹介	港ユネスコ協会会長 永野 博 P 5
4. 式次第	P 8
5. スピーチ	P 9～P 29
① Ms. カレン・リー Karen Lee 「私にとっての日本」	
② Mr. ジェイク・チョン Jake Chon 「日本でおもしろいと思ったこと3つ」	
③ Ms. リュウ・フン 劉 芬 「出会いは宝。仲間は財産」	
④ Mr. クリフ・ユーン Cliff Yoon 「さいこうのにはん・ドラえもん！」	
⑤ Ms. クロエ・ユーン Chloe Yoon 「日本で感激したこと・おもしろいこと」	
⑥ Ms. アンジャナ・K. C Anjana K.C 「障害者外国人のわたしから見た日本」	
⑦ Mr. シール・アハマド・ハムダルド Basir Ahmad Hamdard 「私の日本での忘れがたい思い出」	
⑧ Ms. サントス・マリア・ルーデス Maria Lourdes Santos 「日本人は自分たちの為にもっと自己主張しませんか」	
⑨ Mr. イエ・マーン・アウン Ye Marn Aung 「元気が出るラーメンと自分で考えさせる日本語」	
⑩ Ms. ヌロア・グリゾル Nurova Gulizor 「日本で感じた別の親切さとは」	
⑪ Mr. リー・チャー・チェン Ly Chea Chheng 「私と日本」	
6. 第二部 会場参加者とスピーカーとの交流会	P 30
7. 審査委員	P 31
8. 審査基準	P 31
9. 審査結果・表彰式	P 32
10. スピーチコンテストの感想 慶應大学ユネスコクラブ 筒井真子	P 33
11. 閉会の辞 港ユネスコ協会副会長 菊地 賢介	P 34
12. 主催者側からひとこと 港ユネスコ協会副会長 宮下ゆかり	P 34

1. 第二回日本語スピーチコンテスト開催について

日本の社会の動向を考ええると、外国人の定住傾向は今後ますます強まること
が予想されます。特に港区は人口の8%が外国人です。港区では優しい日本語
を心がけて外国人にも日本語を語ってもらう取り組みをしています。

日本の社会や文化に日頃から深く接している世界各国の人々が日本語でスピー
チすることは、それを聞く日本人に対して「新しい視点を与えてくれる好機」
です。

港ユネスコ協会では、在日外国人の皆様に日頃の日本語学習の成果を発表する
機会を提供するとともに、日本社会や文化の特色をとらえた面白い話が聞ける
場、国際理解を深める場になることを希望して、新たにこの企画を実施するこ
とになりました。

2. 第二回日本語スピーチコンテスト 開催に寄せて

東京アメリカンスクール理事長 坪谷ニューエル郁子(審査委員長)

平成30年12月1日に11名のスピーカーの皆さんを迎えて第2回日本語スピーチコンテストが開催されました。参加者の皆さんは、お子さんから学生さん、社会人の方々と様々なバックグラウンドをお持ちの皆さんでした。皆さんの心を込めてのお話には会場から思わず笑いがこぼれたり、ほんのりと心が温かくなったり、どの方のスピーチも大変素晴らしいものでした。何よりも嬉しかったのは、皆さんが心から誠実に真摯にお話をしてくれたことです。そこには人類愛がありました。



私たちは異なる環境に生まれ育ってきたかもしれませんが、しかし社会をより良く、より平和に持続可能に共生していきたいという思いは共通です。皆さんの話に共通してあったのは、この思いでした。私たちは美しい地球を分かち合う家族なのです。

本当は皆さん全員に金賞を差上げたかったのですが、コンテストという位置付けから順位を決めざるを得ませんでした。審査員一同、心の中では皆さんに金賞を差上げておりましたことをお伝えします。

ご参加していただいた皆さんに心よりお礼を申し上げますと共に、会の開催にご尽力を下された全ての皆様に感謝申し上げます。来年のコンテストでの皆様との再会を楽しみ致しております。

We are all brothers and sisters after all. See you all at the next contest!!

第二回日本語スピーチコンテストに参加して あらゆる多様性を認めあった会

玉川大学ユネスコクラブ顧問 小林 亮



異文化理解を通じて平和で持続可能な社会を創っていくことはユネスコの根本理念ですが、港ユネスコ協会が昨年度の「第1回日本語スピーチコンテスト」に引き続き、2018年12月に開催した「第2回日本語スピーチコンテスト」は、まさにこのユネスコの根本理念を市民レベルで実地に具現化しようとしたすばらしい企画でした。

今回日本語スピーチをして下さった外国人の登壇者の中には、身体にハンディを持たれた方もいましたし、大使館に勤める外交官の方もいました。小学生の子供もすてきなスピーチを披露してくれました。スピーカーだけでなく、非常に多様な背景をもった方々が参加して下さったのが今回のイベントの特徴だったと言えます。しかしそうした多様性を超えて、全ての人が分け隔てなく、同じユネスコの理念のもとに集い、胸襟を開いて楽しい語り合いのひと時を持てたことこそ、「第2回日本語スピーチコンテスト」の大きな成果だったと言えるのではないのでしょうか。人間のもつ多様性を認めあい、一人も取り残さない社会を構築していくことは、国連の「持続可能な開発目標」(SDGs)の底流にあるメッセージですが、自然な形でそれが実践されていた会だったと感じます。

今回の日本語スピーチコンテストでは、スピーカーの方々、主催者である港ユネスコ協会の方々、審査員の先生方、交流会のファシリテーターとして大活躍してくれた慶應ユネスコクラブの学生たち、そして参加者のみなさんが、主客の区別を超えて、全員が「当事者」として、平和に向けた対話のイベントを盛り上げていました。私は港ユネスコ協会が実施された今回のイベントに、ユネスコのめざすビジョン、つまり人類全員が平等な地球市民として主体的に連帯感をもって参加できる理想社会のひな形を垣間見た思いがしました。

3. 朝日新聞での紹介

—平成 30 年 12 月 25 日論座—

楽しかった在留外国人の日本語スピーチコンテスト

港ユネスコ協会会長 永野 博

東京都港区のユネスコ協会が実施、草の根活動からの平和構築の有効性を実感

冷戦終結による平和の配当を喜んだのもつかの間、21世紀に入ると世界のさまざまな地域での紛争にかかわる報道は留まることを知らない。現在でも、シリア、イエメン、ウクライナ東部などでは現実の戦争が続いているし、わが国の周辺での安全保障の状況も予断を許さない。いったん近づいた世界の平和が、また遠のきつつあるようにもみえる。



そんな中、「人の心の中に平和の砦（とりで）を」というユネスコ（国連教育科学文化機関）精神の実践として、私が会長を務める港ユネスコ協会（東京都港区）が12月1日に日本語スピーチコンテストを開催した。ささやかな催しではあるが、実に楽しく、大いに盛り上がった。このような地道な交流の積み重ねが、結果的にはユネスコの目指す平和の実現により影響を与えていくのではないかと自信を深めることができたので、紹介したい。

国連の一機関であるユネスコは第二次大戦直後に誕生した。ユネスコ憲章の前文は、その冒頭で「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦をつくらなければならない」と謳い、さらに続けて「相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信を起こした共通の原因であり、この疑惑と不信のために、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった」と続いている。戦争に負けた直後の日本人はこのユネスコ憲章の精神に感銘し、全国津々浦々から、ユネスコに加盟し、戦後の世界平和の構築に貢献したいという運動がほうはいとして起こった。このような各地の民間ユネスコ運動の盛り上がりは時の占領軍をも動か

し、サンフランシスコ平和条約が発効するより前に国際機関であるユネスコへのわが国の加盟が実現するという快挙に結びついた。現在、日本全国には地域ユネスコ協会が270ほど存在し、港ユネスコ協会もその一つである。

12月1日の日本語スピーチコンテストは、わが国に滞在して日本語の習得に努力されている方々に来ていただき、日ごろ研鑽されている日本語の能力を発表していただく機会を作るとともに、日本人を含めた国籍の異なる人々が交流する場を作ろうというのがその趣旨である。スピーチコンテストへの募集を始めたところ、早い段階で予定の10人を超えて12人の応募があった。出身国も、韓国、オーストラリア、台湾、フィリピン、ミャンマー、カンボジア、ネパール、タジキスタン、アフガニスタン、中国、米国など（二重国籍あり）さまざまであり、年齢も7歳からシニアまで、日本での滞在期間も2か月から10年まで多様性にあふれていた。当日のスピーチは参加者の多様性を反映し、アニメーションの話から、日本や日本人に対する見方、さらにはわが国に滞在する外国人の行動に至るまで、バラエティに富んでいた。日本人が気づかなかった考察も多く、審査員はもちろんのこと、聴衆も身を乗り出して聞き漏らすまいとするようなスピーチが続いた。審査の結果、最優秀賞には「元気になるラーメンと自分で考えさせる日本語」というテーマで話したミャンマーのイエ・メイン・アウンさん（学生の部）が輝いた。滞在7か月でありながら、日本に来て強く感じた二つのこと、一つはミャンマーの料理の味と共通するラーメンについて、もう一つは、仕事でミスをしたときに日本人に必ず聞かれる「なぜ？」ということについて、思いを論理展開していたことが評価された。最優秀賞に次ぐ港ユネスコ協会会長賞は「日本人は自分たちの為にももっと自己主張しませんか」というテーマで話したフィリピンのサントス・マリア・ルーデスさん（成人の部）が受賞した。日本の医療制度を悪用する外国人がいることを指摘しつつ、日本政府がきちんとした対策をとるべきことを指摘した政策提言型の内容であった。審査員特別賞は「さいこうの日本 ドラえもん」というテーマで話したオーストラリアのクリフ・ユーン君が獲得した。ドラえもんよりクレヨンしんちゃんに似ていると家族に言われるクリフ君は、ユーモアたっぷりに、日本、韓国、オーストラリアの何が好きかを話し、聴衆

の喝采をあげていた。スピーチ終了後は、審査結果が出るまでの時間を活用して、スピーカーと会場にいる方々との間での交流会を催した。このセッションは前回、思いのほか盛り上がり評判もよかったため今回も企画した。交流会の全体のファシリテーションを玉川大学ユネスコクラブの小林亮教授にお願いし、小林教授の指導の下に慶應義塾大学ユネスコクラブの学生がファシリテーターとして参加した。全体を四つのグループにわけ、それぞれにスピーカーが3人、聴衆が10人程度ずつ、それにファシリテーターの学生が一人ずつ入るといった形をとった。どのテーブルでもスピーカーの話題からスタートし、その後、和気あいあいと話が大いに盛り上がった。

日本では、日本人と複数の外国籍の人が初対面でグループを組んでも、話の盛り上げ方が難しいことが多いが、共通の話題を作りやすいという状況設定とファシリテーションさえ上手に行えば、大きな困難はないということがわかる。

冒頭に紹介したようにユネスコ憲章はその前文で、諸国民が相互に風習と生活を知らないことがこれまで不幸な戦争をしばしば引き起こしてきたと記しているが、こうした草の根的な活動が確かに戦争予防につながると実感したコンテストだった。ドイツとフランスは第二次大戦後、八百万人に上る若い人の交流を進めてきたと言われている。世界平和の実現は巨額の軍事費を投入するよりも、人々間のコミュニケーションの場を作る方がずっと安上がりで、確実なのではないだろうか。

4. 式次第

2018年度 第2回日本語スピーチコンテスト式次第

1. 開会宣言
2. ご挨拶 港ユネスコ協会 会長 永野 博
3. スピーカー・審査委員紹介
4. スピーチ開始
5. 休憩
6. 審査/会場見学者とスピーカーの交流会
7. 審査結果報告 東京インターナショナルスクール 坪谷郁子 理事長
8. 表彰式
9. 参加者の感想発表
10. 交流会総括 玉川大学 小林 亮 教授
11. 閉会の辞 港ユネスコ協会 菊地 賢介 副会長
12. スピーカーの記念撮影

5. スピーチ

① 「わたしにとっての日本」

Ms. カレン・リー (台湾/オーストラリア) 聖インターナショナルスクール5年

こんにちは皆さん！私の名前はカレンで、私は 聖心インターナショナル スクールの5年生です。私は赤ちゃんの時から、東京に住んでいます。私は台湾とオーストラリア人のダブルです。



日本と台湾で一番ちがうのは、日本は、空気がとてもきれいだということです。台湾では、たくさんの人がオートバイにのっているので 空気はぜんぜんしんせんではありません。日本では、朝おきたときとてもすがすがしくて、私のうちから、とおくまで見ることができます。でも台湾では、空のいろが茶色にかんじます。日本はバイクをあまりもっていないのでかんきょうにいいです。

もうひとつ ちがうのは、日本にはとくに東京には、あたらしいたてものがおおく、きれいなうちが あります。台湾は日本とはちがってあまりたてものをたてないので、ふるいかんじがします。

わたしの もうひとつの くに オーストラリアと日本のちがいはわたしのすきなロブスターが とても大きくて、やすいことです。日本では、たかくて小さいのしかたべられません。

わたしは、みつつのくにがだいすきです。わたしは、くうきがきれいで台湾のようにしんせきがたくさん いて、オーストラリアのようにおいしいたべものがやすくたべられるように、日本がなったらいいなとおもいます。

ありがとうございました。 Thank you! 謝謝

②「日本でおもしろいとおもったこと3つ」

Mr. ジェイク・チョン (韓国/アメリカ)インターナショナルスクール7年



みなさん、こんにちは。

私は ジェイク チョンと もうします。アメリカンスクール イン ジャパンの 七年生です。韓国から きました。日本で とても おもしろいとおもったことが 三つあります。

一つ目は 日本は とても きれいだ という ことです。たとえば、にんきがある しぶや

やはらじゅく には、ごみばこがあります。みんな どうろを きれいに しています。そして ごみを すてる時 たくさんのカテゴリーに わけて すてなければなりません。たとえば、かねんごみ、ふねんごみ、かん、ペットボトルなどです。ペットボトルは キャップと ボトルに わけて すてます。そして、日本人は このルールを みんな まもっています。

私は、時々 おべんとうを 買って 食べます。それを すてる時、プラスチックのおべんとうばこをあらって、ふねんごみに いれます。わりばしは かねんごみです。

ほかの くにでは ひとつの ごみばこ だけです。日本のように、こまかく わけません。日本のごみの システムは めんどうですが、ちきゅうかんきょうに とても よいとおもいます。

二つ目は 日本の こうつうきかんは とても せいびされている という ことです。そして、じかんが せいかくです。でんしゃ や しんかんせんは 1分も おくれません。とても しんらいできる のりものです。日本のこうつうきかんは はってんしているとおもいます。ほかの くにでは いつも おくれます。じこくひょうどおりでは ありません。

さいごに、三つ目は 日本人は さいじつ や イベントに みんな さんかする という ことです。たとえば5月5日の 子どもの日に、こいのぼりを あげます。一つの うちだけでなく、たくさん の きんじょのうちも こいのぼりを あげます。それから、ハロウィンです。ハロウィンは 日本のイベントでは ありません。でも、日本人は ハロウ

インの かざりをして、コスチュームを 着ます。そして、トリック or トリート の
キャンディを もらいます。それにクリスマスのイベントも日本のイベントではありま
せんが、みんなケーキを食べておいわいします。_____クリスマスには、きれい
なイルミネーションでうっちやとおりがかざれます。

日本は がいこくの イベントを うけいれています。

いじょうの 三つから、私は 日本は きれいで、ゆうのうで、こくさいてきな くに だ
と おもいます。

ありがとうございました。

③ 「出会いは宝、仲間は財産」

Ms. 劉 芬 (中国) 作新学院大学人間文化学部 3 年



私は、2014年4月、18才の時に日本へ留学に来ました。初めての国を離れ、日本語を話すという夢を実現するためにと覚悟はしましたが、言葉が通じない新しい環境に対する不安はやはりありました。しかし、日本語学校で2年間の学生生活で、私は一生忘れられないことを経験し、人の温かさを感じ、新たな環、境新たな世界に

飛び込む勇気をもらいました。

どの国においても、友達是我们にとって欠かせない大切な存在ではないでしょうか。今まで私はいろいろな人と知り合い、友達になりました。今もたくさんの友達がいて、友たちと一緒に楽しい日々を送っています。しかし、人生のターニングポイントに深く関わっている友達と言え、日本語学校で出会ったクラスメートや先生たちです。

私は「日本語を話す」という夢を実現するため、日本語学校に入学しました。そこで私と同じ夢を持っているクラスメートたちに出会いました。彼らは、それぞれ、アメリカ、ベトナム、中国、台湾、フィリピン、イギリスから来た学生でした。私たちは、違う国から同じクラスに集まってきた一つの家族のようでした。まだ日本の生活や習慣などが分からない私たちにとって、教えてくれた先生たちは母親と父親のような存在でした。

日本に来たばかりの時は、日本人とコミュニケーションを取りたくても、その時の日本語レベルでは、言いたいことが伝わらないことはたくさんありました。しかし、私は伝わっているかどうかは気にせず、身振りや手振りなどを使い、とにかく一生懸命話しました。先生とのコミュニケーションは特に、私は一つ一つの単語しか話せま

せんでしたが、先生はいつも「はい、なるほど、そうですね」と返事をしてくださいました。今となって顧みると、その時、私たちの言っていたことを本当に分かっていたのだろうかと思います。しかし、本当に分かったかどうかはともかく、分かってくれた姿を見せてくれた先生たちには心から感謝しています。なぜなら、日本語ができなかった私たちに日本語を話す勇気を与えてくれたからです。

日本に来て一年目の終わりの頃、日本語学校卒業式の時に行ったスピーチコンテストに参加しました。その時の光景は今でもはっきりと覚えています。私にとってはとても貴重な思い出の一つです。

卒業式の一環としてクラス全員で歌を皆の前で歌うことになりました。歌の名前はアンジェラ・アキの《拝啓 十五の君へ》です。歌詞に「人生のすべてに意味があるから、どんな困難に遭っても、恐れずに自分の夢を育てていこう」があり、先生が薦めてくれました。たぶん私たちへのメッセージだったと思います。発表に向けて、私たちはあらゆる時間を利用し、たくさんの練習をしました。しかし、準備をしっかりと、数百人の前に立つと私たちはとても緊張してしまい、体が震える人もいました。でも、歌い始めたとき、私たちが緊張していると先生が分かってくれたのか、歌の隊列に加わり、私たちと一緒に最後まで歌ってくれました。私たちは先生から日本語を教わっただけではなく、温かい気持ちと勇気ももらいました。クラスメートと一緒に歌えたことで仲間の大切さを知ることもできました。

その後、私は日本語でスピーチをしました。スピーチは初心者には、難しい単語が何個か混ざっていました。先生やクラスメートたちに相談したところ、スピーチの内容を外国人の皆さんにも分かるように、スピーチが始まる直前に、英語ができる人はその単語を英語に、ベトナム語ができる人はベトナム語に訳して黒板に書いてくれました。さらに、私が緊張している様子を見て、「緊張しないで、リュウさんなら大丈夫だよ、頑張って」と励ましてくれました。これらの経験から、友達の真の意味とは国籍や文化の差異などと関係なく、お互いに助け合い、励まし合い、理解し合い、ともに進歩することだと分かりました。この暖かくて貴重な思い出は未来に向かって進ん

でいる私を永遠に励ましてくれるでしょう。それ以来、辛いことがあった時、一緒に頑張ってきた皆さんの姿を思い出すと、また元気になれます。

出会いは宝、仲間は財産。今日、この会場にいらしている皆さんと出会ったことも私の宝になり、一生大切にしたいと思います。

不安ながら日本留学を選択しましたが、私が想定できなかった宝や財産が得られました。これからの道のりがまだまだ長い、私の夢もまだ実現できていません。新たな環境に恐れず、新たな出会いを期待しながら仲間と一緒に夢に向かって前進していきたいと思います。

ご清聴ありがとうございます。

④ 「さいこうの にほん ドラえもん！」

Mr. クリフ・ユーン (韓国/オーストラリア)ニシマチインターナショナルスクール2年

こんにちは。

西町インターナショナルスクールのドラえもん、クリフです。2ねんせいです。かぞくは、ドラえもんよりクレヨンしんちゃんににているといっています。とうきょうにはいちねんはんすんでいます。



にほんの まんがでは ドラえもん と のびたが だいすきです。でも いちばん すきなのは かんこくの きょうりゅうの まんがです。なまえは 「ドゥーリー」です。とうきょうに すんで、ドラえもんを みながら、にほんの たべもの、うち、がっこう などについて たくさん まなびました。きょうは そのなかの にほんぶんか に ついて みつつおもしろい ことをはなします。

ひとつめです。にほんには たくさん イベントが ある と いうことです。そのなかで おしょうがつ と なつまつりは とても おもしろいです。おしょうがつには おもちのスープをたべました。ぼくの くにの かんこくでは おしょうがつに おもちの スープを たべます。にほんの おぞうに に ています。でも かんこくの おもちスープには のりと にくと たまごが はいっています。

なつには あぎぶじゅうばんの なつまつりに いきました。おとうさん、おかあさん、おねえさんと いっしょに いきました。いろいろな やたいが たくさん ありました。やたいで のりまきを かって たべました。たのしかったです。

ふたつめは にほんの ひとは しんせつだ という ことです。なにか きくと かならず おしえてくれます。にほんじんは とても しんせつです。ぼくも おとなに なったら ほかのひとに しんせつに したい と おもいます。

みつつめは にほんの たべものです。ぼくが いちばん すきなたべものは くらやき、りよくちゃです。あまい くらやきを たべて、りよくちゃを のみながら ドラえもん の まんがを みるのは さいこうです。

いろいろな めずらしい イベントが あって、おいしい たべものを たべて、やさしい ひとに かこまれて、せいかつ できる 日本のかには とても すばらしいと おもいます。西町インターナショナルスクールの クリフでした。ありがとうございました。

⑤ 「日本で感激したこと、おもしろいこと」

Ms. クロエ・ユーン (韓国/オーストラリア)ニシマチインターナショナルスクール5年

こんにちは クロエ ユーンと もうします。かんこくから きました。西町インターナショナルスクールの 5ねんせいです。



わたしが 日本で いちばん かんげきしたことは日本の おまつりです。たくさんの ひとが はっぴを きて、おみこしを かつぎます。たくさん やたいが でて、わたあめ、かきごおり、やきそば、きんぎょすくい、のみもの、キャンディアップル、おもちやなど うっています。おんなの人は ゆかたを きて、うちわを もっています。かんこくには こんなおまつりが ありません。さいしょ 見たときとても びっくりしました。その中に、キャンディアップル、りんごあめを みつけて、また びっくりしました。なぜかという、りんごあめは アメリカの たべもので、日本の中で みたことがなかったからです。やたいも おもしろい やたいが たくさん ありました。たとえば、くしに さした 魚を すみで やいている やたいや、かきごおりの やたいや、ボールすくいの やたいが ありました。かんこくにも かきごおりは あります。かんこくのは シロップだけでなく、あんこや もちが はいっています。かんこくの かきごおりも 日本のかきごおりも どちらも おいしいです。

もうひとつ 日本で おもしろいのは、しょうがくせいです。みんな おなじ 黄色い ぼうしを かぶって バックパックを もっています。あとで これは らんどせる だと ききました。このバックパックは とても おもしろいと おもいました。ふつうの バックパックは ファスナーが あるのに、ランドセルは じしゃくで とめて、かたちが しかくです。こんな おもしろい バックパックは みたことが ありません。

わたしは 日本に きて いちねんはんです。たくさん あたらしいことや めずらしいものに あいました。みんな たのしいもの ばかりです。わたしは わたしのくに かんこくが すきです。でも、日本の くにも だいすきです。ありがとうございました。

⑥ 「障害者外国人のわたしから見た日本」

Ms. アンジャナ・ケー・シー (ネパール) 非営利団体代表

めっきり寒くなりました。みなさんの中に、車いすに乗った経験がある人、誰かいますか？

みなさん、こんにちは、アンジャナと言います。ネパールのポカラから来ました。今日は、車いすに座りながらの生活はどうですか？それについて話します。みなさん、何か特別なことあるかなと思うかもしれません。特別なことは何もない

です。車いすに座りながら生活するのは本当に便利で面白いです。もし車いすを自分で動かす力があって、道がでこぼこでなければですけどね！そしてもう一つ面白いことは、人の間違いも車いすのせいになることです。例えば、ネパールでは約束したイベントや仕事は、時間どおりに行かなくても大丈夫です。なぜなら、「すみません、車いすを乗せてくれる車が全然来なかったのです。」「すみません、あのイベントには本当に参加したかったのですが、2階まで車いすのままでは上がれなかったのです。」これはいつもネパールで使う理由です。本当の理由ですよ。



では次に、日本で車いすの生活はどうでしょう？2つのことを紹介します。

1つめは交通です。日本は車いすを使って自由に移動できます。電車にもひとりで乗れます。ただ、時間を守らないといけません。例えば、11時に会議があります。電車で30分かかるところも、車いすの人は1時間前に出ないといけません。なぜだと思いますか？駅で長い時間待たなければなりません。駅員さんに、「すみません、すみません、上野に行きたいです。」「はい、わかりました。ホームのところで待っていてください。係員が行きます。」係りのひとが来ました。そして電車が来ました。お客さま、この電車はすごく混んでいます。次の電車にしましょう。」「すみません、まだ行先の駅に連絡ができていないです。もう少し待ってください。」3台、4台、電車を待っていても乗れないのです。

日本では電車のための道、バスの道、車のみち、バイクの道、ひとと車いすの歩道があります。また話をネパールに戻しますね！道。ネパールは同じ道で、車、バイク、自転車、ひと、ねこ、いぬ、やぎ、うし、すいぎゅうと、車いすが、1つの同じ道を自由に歩きます。だから、牛が自由に歩いているところを見たかったら、ネパールに来てください。ネパールは動物の自由が結構ありますよ。動物も自分らしく生きています。

もう1つは、車いすの挨拶です。ネパールと日本でちょっと似ています。例えば、日本は挨拶するとき、相手に向かってお辞儀で挨拶しますね。ネパールも同じです。ただ、車いすに座ったまま相手の方に向くことが大変です。いつもぶつかります。あまりマナーがよくないと思うことも結構あります。

本当は、自分がありのまま自分らしく生活したいです。でも、それだけしていたら相手の役割と自分の役割もわからなくなります。だから、人生はどのくらい自分らしくできるか？ どのくらいルールを守ることができるか、自分で決めないといけないです。でも、世の中には自分だけで決められないこともたくさんあります。人生は考えたとおり、思ったようには100%はならないです。だから人生は面白いです。

それは、まるで初めて見たドラマのように。

⑦ 「私の日本での忘れ難い思い出」

Mr. バシール・アハメド・ハムダルド (アフガニスタン)アフガニスタン大使館一等書記官



みなさま、こんにちは、

初めに、今回イベントを主催してくださった皆様に心から感謝申し上げます。そして、本日お集まりいただきました皆様、どうもありがとうございます。

私はバシール・アハメド・ハムダルドと申します。駐日アフガニスタン大使館の一等書記官として政治を担当しています。

私のスピーチのタイトルは「私の日本での忘れ難い思い出」です。

私は、2008年に初めて来日し、大阪で日本語と文化を勉強しました。今回、初めて長い間、家族と離れたので私には一番つらい時期でした。日本語を学び始めて、幸いに親切な日本人と会いました。いい友達に出会ったことにより、日本で新たな家族ができたような気がしました。母のように敬愛する、田中さんのおかげで、私は日本で、自分の国にいるような幸せな時間を過ごすことができました。それから私は、奈良、京都、広島、東京のほか、日本の歴史的な街を訪れる機会がありました。その経験を通して日本の文化を発見し、理解することに役立ちました。

私にとって、日本が第二の故郷のように感じ、ホストファミリーも、本当の家族のように感じました。

私は日本人が、とても親切で、正直で能力があり、おもてなしずきであることを知りました。

2008年から今に至るまで、ホストファミリーとは、強い絆で結ばれており、お互いによく連絡しあっています。日本人は、とてもすばらしく、尊敬できる人々であることがわかりました。日本で得た体験はすべて良い、楽しい思い出になっています。

ほかに私が驚いた事として、日本とアフガニスタンの文化的な類似点があります。例えば、お正月、結婚式、お葬式、お墓参り、お花見があり、両親を大切にすること等です。日本の皆様はお正月におせちを食べますが、アフガニスタンでも特別な料理を食べます。名前はハフトメワと言います。意味は、七つのフルーツという意味です。こたつを、冬に使うことも、日本とアフガニスタンの共通点です。おもしろいのは、お葬式も、日本とアフガニスタンは似ています。一日目から三日目、40日、一年と亡くなった方のために集りがあります。お盆もあります。また、アフガニスタン人は、毎年お墓参りをしますが、その時お墓に水をかけてお花を供えます。なぜ日本とアフガニスタンはこれほどにも共通点があるのでしょうか。

アフガニスタンは1400年前、仏教の中心でした。例えば、バーミヤンとハッダが有名です。仏教はアフガニスタンから日本に中国を経由して来ました。このために、日本とアフガニスタンは今でも同じ文化を共有しているのです。

アフガニスタンは仏教の文化とイスラム教の文化を大切にしています。ご清聴ありがとうございました。

⑧日本人は自分たちの為にも、もっと自己主張しませんか

Ms. サントス・マリア・ルーデス (フィリピン) エスティシャン

皆さま、こんにちは。私はマリア・サントスと申します。フィリピンのマニラ出身です。日本滞在は8年目です。仕事はエスティシャンです。

今日は「日本人は自分たちの為にもっと自己主張をしませんか」というお話をいたします。最近来日する外国人が増えています。来日の目的はだいたい3つです。1. 観光 2. 仕事 3. それ以外。3のそれ以外、例えば日本の保険制度を無料で利用



するための人達も多くいます。保険料は誰が支払っているのでしょうか。今までまじめに長年働いてきた人達、日本人の税金、血税です。自分たちのためでなく、縁もゆかりもない外国人のために。私はこんな不公平なことはないと思います。

私が来日した時、娘のパウラはまだ子供でしたので日本の保険制度に救われました。大変ありがたく感謝もしています。しかし、今では「これで本当にいいのだろうか」と疑問を持つようになりました。長年一生懸命働いてきた日本人の方々の努力に報いてこそ、このお金が生かされるべきだと考えています。日本政府は、日本の国民が満足できるようなお金の使い方をしてほしいと思います。ただ、不満を持っても現状に甘んじて、黙っては何もなりません。他の人を先に考える日本人の気持ちも結構ですが、まず自分のことも大切にしていきたいと強く思います。私は日本人が苦勞をして他人の犠牲になる必要はありません。もっと公平に納得できるようにこの制度の法律を見直し、自国民が満足できるように改革するべきだと心から念じております。ですから、日本人の皆さんが自分自身で立ち上がり、行動を起こしてください。皆さまはいかがお考えでしょうか。

今日は「日本人は自分自身のためにもっと自己主張しませんか」というお話をしました。マリア・サントスと申します。お話をお聞きくださりありがとうございました。

⑨ 「元気が出るラーメンと自分で考えさせる日本語」

Mr. イエ・マーン・アウン (ミャンマー)国際日本語学院学生



皆さまこんにちは。

私はミャンマーから参りましたイエ・マーン・アウンともうします。日本には今年の4月に来ました。国際日本語学院で日本語を勉強しています。まだ日本語が上手ではありませんが、これから発表します。

(テーマ) は元気が出るラーメンと自分で考えさせる日本語です。

皆さま、聞いてください。私が日本に来て強く感じたことが二つあります。

一つ目は日本のラーメンです。とてもおいしいです。塩、味噌、豚骨、魚などのスープの種類もいろいろありどれもおいしいですが寮の近くにある赤いスープのラーメンが一番好きです。食べるとお腹が痛くなるほど辛いですがミャンマーの料理の味と似ていますが、食べると元気が出ます。毎日食べたいですが、お金がなくなるので毎日食べることはできません。嫌なことがあった時に元気になるために食べています。

二つ目は、日本人から毎日言われる言葉です。学校でも、アルバイト先でも毎日何回も言われます。その言葉は「なんで?」「どうして?」「なぜ?」「なんでこうしたの?」「どうしてそう思うの?」です。アルバイトでミスをした時、マネージャーから「なんでそんなことをやったの?」と何回も聞かれました。その時は怖くて言葉が出て来ませんでした。後で考えて見るとそれは大事な質問だと思いました。

私がアルバイト先でレジのミスをした時に、どうしてミスをしたのかわからなかったので日本人に聞きました。その時日本人のスタッフが「それは違うよ。こちらのボタ

ンだよ。」とていねいに教えてくれました。考えてもわからない時は、勇気を出して聞くことが大切であることを学びました。日本人は優しく教えてくれました。

私たちは毎日いろいろなことをしています。している事に対しての理由は必ずあります。その中でミスをすることもあります。なんでミスをしたのか理由を知らないと同じミスをくり返します。理由がわかれば、ミスをしないように注意することができます。

なぜ日本人はいつも理由を聞くのか？と日本人に聞きました。日本人は子どもの時からの教育だから言いました。日本では怒られている理由を子どもに考えさせるそうです。私の国では少し違います。子どもに考えさせるチャンスが多くありません。日本が先進国になった理由は、いつも「なぜ？」「どうして？」をかんがえているからだと思いました。日本に来てから私は、教育者になりたいと思いました。日本の教育を専門的に学び、国のこどもたちを育てたいと思いました。

日本語学校を卒業したら、教育を学ぶ大学へ行きたいです。でも私は若くないですが専門学校へ行って就職したほうがよいか迷っています。今は日本語を勉強して、日本語学校を卒業するときは日本語の能力試験 JLPT に 1 級に合格したいです。

さいごにまた日本の文化やでんとう。日本の良い所をたくさん学び、日本とミャンマーの友好をふかめるためにもがんばりたいと思います。がんばります。ごせいちょうありがとうございました。

⑩ 「日本で感じた別の親切さ」

Ms. ヌロア・グリゾル (タジキスタン)武蔵野大学タジキスタン国立言語大学留学生



皆さん、親切さはなんだと思いますか?親切な人はどんな人ですか?

たいていの人が親切な人は困っている時助ける、手伝う人だと考えるでしょう。しかし、すべて代わりにしてあげて手伝う人を親切と言ってもいいのでしょうか。

私の出身タジキスタンではお互いに手伝いあうことが多いです。例えば宿題がわからなかったらしてくれるとか道がわからなかったら迎え

に来てくれるなどです。私もこのような環境の中で成長してきたため、わからなかったら自分で考えないですぐ他の人に頼ってきました。

日本に来て日本語もあまり上手ではなかったので困って、迷うことも多かったです。地震もなかったし、方法もわからなかったので、どうすればいいかわかりませんでした。だから、何かをする前に難しいからできないだろうと思って頑張らなくなりました。

ところが授業が始まって数週間たったある日宿題がわからなくてある先生のところへ行きました。先生は宿題を手伝ってはくれませんでした。私の話を聞いてくれたり様々な意見を出してくれたりしました。それから私は自分の意見を述べるようになり自信を持つようになったのです。

いつもできなかったことはあつたら他の人が手伝ってくれると思うと人は前に進みません。反対にできないことがあっても自分で頑張って最後までやって、その後成功したら、また様々なことに挑戦するようになるから、人はどんどん前に進めると思い

ます。日本では何かできないと言っても日本人はあなたの代わりにしないで、アドバイスをくれたり「頑張って」とはげましてくれたりします。

以前、私は親切な人はこまっている時に助ける人だと思いました。でも日本に来てから困っている時に助ける行動より助ける言葉のほうが大切だということがわかりました。

日本に来てこんな経験もしました。私は日本に来る前コンピューターの使い方があまりわかりませんでした。なぜならいつもパワーポイントを作るときお兄さんや友達にお願いしました。その代わりに次の時にもし友達が困っていたら、すぐ助けに行かなければなりません。なぜならもし誰かが手伝ったら次回また返さなければなりませんから。コンピューターの使い方はいつもお兄さんや友達がいると思って習おうとも思いませんでした。

日本に来てから日本語の授業でパワーポイントを使って発表する課題がありました。そのとき「お兄さんは日本語がわからないからお願いすることができない」と思って、先生に「授業の課題はできません」と言いました。

先生は私の代わりにパワーポイントを作るのではなく、どうやって作るのかを教えてくださいました。それから自分でできるようになったのです。でもこれを返さなければならぬと思いませんでした。でも先生に大きな感謝の気持ちを持ちました。

そのような出来事がこの短い期間でたくさん起こりました。私はこのような日本で気がついた親切さを決して忘れません。また日本人の皆さんに「ありがとう」と言いたいです。これから残った時間大切にして色々な人ことに挑戦して行きたいと思いません。

⑪ 「私と日本」

Mr. リー・チャー・チェン (カンボジア)武蔵野大学ブノンペン王立大学交換留学生



皆さんこんにちは。私はカンボジアから来たリー・チャー・チェンと申します。現在、武蔵野大学で交換留学生として勉強しています。日本に来るのが決まった時は本当に嬉しかったです。日本に来て3か月たちましたが、新しい経験から多くのことが分かってき

ました。日本は私の国と非常にと違います。環境、文化、生活、季節、食べ物などがとても違います。また、日本人はたくさんのものや技術などを作ることができて、本当に素晴らしいと思います。

私は日本について3つのことを興味を持っています。一つ目は季節、2つ目は日本ポップカルチャー、と3つ目は日本のアルバイトです。

最初は季節について話します。私の国カンボジアには雨季の乾季の二つの季節しかありませんが日本の季節は4つがあります。それぞれの季節が面白いところがあると思います。例えば、春に桜が咲いたら日本人がお花見をします。夏は花火大会があり海で泳ぐこともできます。秋は葉っぱの色が変わって、紅葉がとてもきれいでした。冬にはクリスマスとお正月があり、とても楽しみです。

次は日本ポップカルチャーに関して興味を持っていることを話します。私は武蔵野大学で日本のポップカルチャーを勉強していて、様々な情報が分かってきました。アニメ、ドラマ、映画、音楽などを勉強しましたが、その中で特にアニメが大好きです。日本のアニメは日本をはじめとして、海外でもすごく人気があります。私は子供の頃、クレヨンしんちゃん、ドラえもん、ナルトなど日本のアニメを見ていました。しかしその頃はどこの国のものかわかりませんでした。大学の授業で日本のアニメの魅力をもっと探りたいです。

最後はアルバイトについて話します。私は今セブンイレブンで一週間5回、アルバイトをしています。私の国では、アルバイトをしたら、自分の時間を決められません。一方、日本では時間が自分で決められるアルバイトが多いですカンボジアでアルバイトをした時、仕事でミスをすると、店長にすごくしかられました。ところが、日本ではそれは私が間違えた時は、店長は全然私をしかりませんでした。私に「気を付けて、もっとがんばってください。誰でも間違いがあります」と言ってくれました。いつも励ましてくれるので、仕事にもっとやりがいがあります。また、周りの人も優しく、お互いに協力しています。でも私は外国人ですので、仕事に間違いがないか心配しながら仕事をしています。お客さんもやさしい日本語を使ってくれるので分かりやすいです。先日、お客様が私に「仕事、頑張ってください」と言ってくれました。本当に嬉しかったです。

私は日本に来てからもっと日本が好きになりました。私は全部学んだ素晴らしいことをカンボジア人に伝えます。以上です。

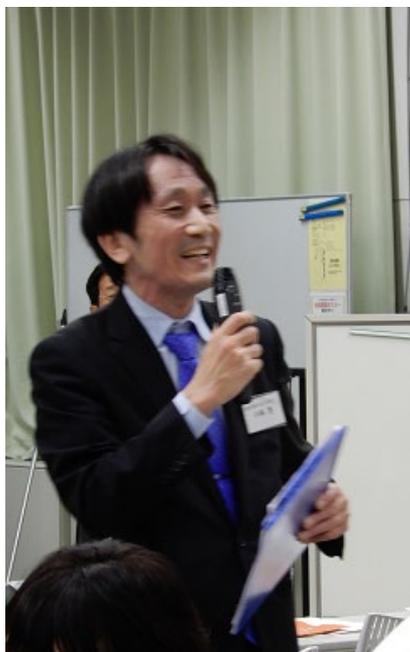
第2部 会場参加者とスピーカーとの交流会/審査及び結果発表

6. 会場参加者とスピーカーとの交流会

玉川大学 小林亮教授のご指導のもとに慶應大学ユネスコクラブ(港ユネスコ協会ユース委員会)の学生がファシリテーターとして参加しました。参加者が3つのグループにわかれ、それぞれのスピーカーを囲みながら「留学生の苦勞話や、日本や日本語への思い、日本観や今後の発展など」について自由な質疑応答を行いました。この企画により、スピーカーと参加者の交流が行われました。

この間審査委員は別室にて審査をおこないました。

玉川大学 小林亮 教授



7. 審査委員

審査委員長 東京インターナショナルスクール理事長 坪谷郁子

審査委員 国連大学サステイナビリティ高等研究所事務総括 横井彩

審査委員 港区教育委員会生涯学習課 穀山杉郎

審査委員 新橋赤レンガ発展会役員 玉置修二

審査委員 港ユネスコ協会 会長 永野博

8. 審査基準

- ① 自分の思いや考えが伝わってくるか。
- ② 未来に向かって頑張る姿勢が伝わってくるか。
- ③ 日本人や日本文化に対する新鮮な見方、考え方があるか。
- ④ 異文化に対する理解の有無。
- ⑤ 感動出来る内容。

9. 審査結果・表彰式

坪谷郁子 審査委員長（東京インターナショナルスクール理事長）より、以下のとおり受賞者の発表が行われました。

「最優秀賞」 Mr. イエ・マーン・アウン 滞在 7 ヶ月

「港ユネスコ協会会長賞」 Ms. サントス・マリア・ルーデス 滞在 8 年

「審査委員特別賞」 Mr. クリフ・ユーン 滞在 14 ヶ月

港ユネスコ協会会長 永野 博より 3 賞の受賞者に対して、それぞれ賞状、カップ、記念品（輪島塗の夫婦箸）が、また優秀賞の方々に対しては賞状、盾、記念品（輪島塗の夫婦箸）が授与されました。



坪谷郁子審査委員長
Mr. クリフ・ユーン

Mr. クリフ・ユーン Mr. イエ・マーン・アウン
Ms. サントス・マリア・ルーデス



参加者全員



10. スピーチコンテストの感想

慶應大学ユネスコクラブ 筒井真子

第2回スピーチコンテストで様々な国、年齢の方がお話しされているのを聞かせていただき、私が日本で暮らしている限り感じることでないことを外国人目線で語っていただき、改めて日本のいいところを再発見できました。また、交流会ではファシリテーターをつとめさせていただき、様々な国の方と交流する機会をいただき、とても楽しい時間を過ごすことができました。各国のお祭りの話や、民族衣装の話、国民性の話と、普段聞くことでない話を直接聞くこともできました。みなさん本当にイントネーションも発音も綺麗で、努力の成果に感激しました。私たちが思っている以上に、日本は素晴らしい国だと感じることができたので、この日本で生まれ育ったことに感謝していきたいです。



永野会長 坪谷郁子審査委員長
小林亮教授 慶應大学ユネスコクラブ

慶應大学ユネスコクラブ学生
山田夏鈴 平嶋夏海



11. 閉会の辞

港ユネスコ協会 副会長 菊地賢介



第二回日本語スピーチコンテスト開催にあたり、多くの皆様方の協力のもと無事終了することが出来大変感謝申し上げます。

今回のコンテスト開催にあたりましては、国と国、人と人を繋ぐコーディネーターとしてユネスコ協会が国際交流の舞台を設けることでスピーカーの皆様には感動を得る場になり、会場におみえの皆様には新しい視点で海外から日本に来られた皆さんがどのような体験をされているかを理解する場になった事と思いま

す。今後も参加されたスピーカーと来場された方々の意見をしっかりと受け止め修正しつつ第三回 四回と続けて行けますよう関係各位のご協力をお願い申し上げます次第です。

12. 主催者側からのひとこと

港ユネスコ協会 副会長 宮下ゆかり

第2回日本語スピーチコンテストにあたり、玉川大学ユネスコクラブの皆様から頂戴したご協力に対し、心からお礼申し上げます。スピーカーとして応募して下さった方々の年齢やスピーチ内容は多岐にわたりました。とりわけ年若い方たちが複数参加して下さったことは、私共にとっても大きな励みになりました。

第1部に続く第2部も暖かい雰囲気の中に進行し、相互理解が深まる楽しい時間となりました。私共の大きな目標であるユネスコ憲章、そこに掲げる「相互の風習と生活を知る」ため、ささやかな一歩を、この新橋の地に踏み出せたのではないのでしょうか。第3回にも多くのご参加がありますよう期待しております。



NINATO TOKYO